

9/15(月/祝) 即興ライブ 10/16(木) in DOLPHY

10/12(日) 生ライブ Free Jam Session (自動運動 in 横浜道場)

中学時代に憧れだった山下洋輔さんに初めてお会いしたのは20歳の時。

その時、私の演奏後に言われた言葉を支えに細々とピアノに向かい続けてきました。

30年後、再び洋輔さんにお会いし、その時がけてくれた言葉を全て覚えてくださっていた事に感動。

「だってお前ほど俺にしている奴はいなかったから」

——という言葉のあと、最後に真顔で言われました。

「いいか、絶対に絶対にピアノを弾き続けろよ!」こうして書いていても熱い想いが生じます。

それから10数年たった今も細々と弾き続けているのは、そうした理由によります。

道場の自動運動会以外で弾く事は、この数年めっきり少なくなってしましましたが、

昨年9年ぶりにドイツ在住のベーシスト安藤さんとドルフィーで共演できたのは嬉しかった。

やはりミュージシャンにとって、ライブハウスの演奏は表舞台でもあります。

その後も金剛さんとよしきさんの”淨潤を引っ張り出そう”というシークレット企画によって

ライブハウス フーラウトで演奏したり、先日は久しぶりに誕生日ライブをドルフィーにて。

その後の誕生日パーティで、と或る同業者(ピアニスト)から言われた言葉に驚いた。

「淨潤さん!私がどれだけずつ悔しい気持ちでいたか知らないでよ。」

(中略)○○さん(老舗のライブハウスマスター)だって、『淨潤は洋輔を超えた』って言っていたのよ。」

そんな…

そんな事はないと思うが、でも洋輔さんにはなれなくても、長谷川淨潤にはなれるかも”しれないと思い、今回の企画を立ててみました。

愛するベーシスト安藤さんとドラマーのつの犬とのトリオを主軸とするドルフィーでの10/16(木)ライブが目玉。

(そこに馴染みの金剛さん、直さん、よしきさん、さらには、”この日のために”と松本健一が山形から来てくれる!)

その前座?として企画したのが、10/12の横浜道場ライブと9/15のドルフィー。

10/12はたった数日しか横浜に滞在しない安藤さんにご無理を言っての道場ライブ。(実に12年ぶり)

そして私が思っている「ライブハウスを自動運動会のように。自動運動会をライブハウスのように!」という念願の企画でもあります。

(その為、自動運動を知らない方もご参加大歓迎!!)

横浜道場30周年に向けて新しく入ったpiano音も堪能下さい。

9/15はドルフィー自体の前座。安藤さんはいらっしゃれませんが、代わりに俊さんが参加してくれます。(ー)

そして、「ドルフィーが自動運動会に」なりますように!

それぞれ最高のライブになったら。

いらっしゃる皆さんが、”音を通しての整体援助”になったらは鳥滝がましい面もありますが、少なくとも楽しんで戴けたら。

自動運動会とライブハウスの双方からのjointになつたら。

私としては、ピアニストとして再スタートできたら。(洋輔さん、青柳さん、顔晴り始めましたよ!)

ここまで書いて思い出すのは、洋輔さんと初めて会った時位から教わった坂本輝さんから戴いた最後の言葉。

「君は即興演奏家になるべきだ!」

——つれづれ書き連ねましたが、ぜひ皆さん、私以外の最高のミュージシャンの演奏もご堪能下さいませ。
お待ちしています。

※今回のライブ(特に最初の2つ)を洋輔さんと輝先生に捧げます。

長谷川淨潤



9/15・10/12・16

安藤明



10/12・16

竹内直



10/12・16

金剛督



10/12・16

勅使川原よしき



9/15・10/12・16

齋藤俊輔



9/15

松本健一



10/16

つの犬



9/15・10/12・16

即興演奏ライブ in DOLPHY

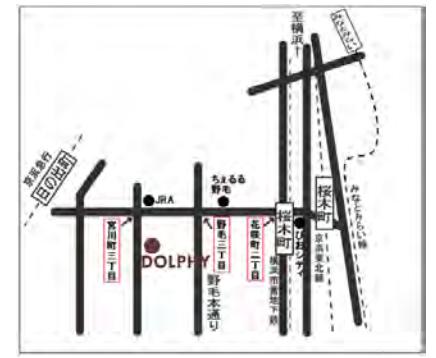
9月15日(月/祝) 出演:長谷川淨潤、勅使川原よしき、齋藤俊輔、つの犬
10月16日(木) 出演:長谷川淨潤、安藤明、竹内直、金剛督、勅使川原よしき、
つの犬、松本健一

両日共に

時間:13時~15時 会場:JazzSpot「DOLPHY」

料金:3600円(+1ドリンク)/事前予約の場合 3300円(+1ドリンク)

予約先:ドルフィーへ直接お願いします <https://dolphy-jazzspot.com/>



横浜市中区宮川町 2-17-4 第一西村ビル 2F
☎ 045-261-454

自動運動会 in 横浜道場

10月12日(日) 出演:長谷川淨潤、安藤明、竹内直、金剛督、勅使川原よしき、つの犬

会場:横浜道場 時間:13時~15時

講座料:4,000円(動画会員 3,000円)

予約不要・当日支払可

※動画撮影が入ります ※講座終了後、サロンあり(2Fkumuにて)

10/12 の映像は、
後日「動画会員」の皆様に
動画配信します。
動画会員につきましては、
右の QR よりご覧ください。



ミュージシャンプロフィール(50音順)



安藤明 ANDO Akira(コントラバス、チェロ)

1955年札幌生まれ。

1976年~慶應義塾大学モダンジャズソサエティにてダブルベースを学ぶ。1980年~東京、横浜、札幌、長崎などでジャズを演奏。1984年ボストンのバークリー・カレッジ・オブ・ミュージックで学ぶために渡米。ニューヨークへ移住。レジー・ワーカー、セシル・マクビーなどにも個人レッスンを受ける。以降アメリカで演奏活動。

特に1993年からビリー・バング・カルテットの一員でツアー。1997年にはセル・ティラーのピッグバンドの一員で演奏。

1998年ベルリンへ移住。以降、即興演奏を中心に舞踊、詩、絵画など多くの芸術分野とコラボレーションしながら多角的に演奏活動を展開。最近ではTストーム・ポーグマン、Dsヴィリー・ケラーとのツアーや、Dsグンター・ペイバー・ゾンマー、Clフロロス・フロリディスとの共演など多数。



つの犬 TSUNO Ken (Drum)

中学生でドラムを始めジャズピックバンドに所属しドラマーになり、ジャズ、ロック、R&B、アフリカン、民謡など幅広く演奏。アメリカ、ヨーロッパ、中国、韓国、アフリカでのコンサートツアーを経験。

現在は、ききよう(高校時代からのオリジナルロックバンド)、キング清六(旧き生きジャズサックストリオ)、華村灰太郎(歌とギターとオリジナルブルース)カルテット、大太太犬(鈴木徹大ジャズギター、作曲)、椎名達人ベース加藤崇之ギタートリオ、川嶋哲郎(ジャズサックス、作曲)&フィスト、山口コーイチ(ジャズピアノ、作曲)トリオ、小林里枝(ジャズサックス)トリオ、グレートセントラルサン(勅使川原よしき歌、作詞作曲によるオリジナルポップジャズバンド)、トリオうたかた(歌島昌智ジャズピアノ、作曲)、美狂乱(須磨邦雄ギター、作曲によるプログレッシブロックバンド)のメンバーとして演奏している。



金剛督 CONGO Susumu (Saxophone)

12歳からサックスを始め、牟田久壽氏、須田寛氏に師事。

世界三大サックスメーカーの一つ、柳澤管楽器株式会社に入社。1995年Congo Saxophone Studioを設立、サックスのリペア、レッスン、パフォーマンスのサービスを開始する。

1997年リリースしたCD「OUR TRIBAL MUSIC」にてJazzLife誌最優秀新人賞。

サンモールインターナショナルスクールガラコンサートをはじめとする各地でのコンサートやレコーディングの他に、横浜市立大学附属病院や全国各地でのボランティア演奏活動や、市民サックスアンサンブルの指導も行っている。

2021年リトアニア NoBusiness Recordsから高木元輝四重奏団に参加、CDとLPリリース。他、数枚のCDとDVDがリリースされている。<https://www.congo-sax.com/>



勅使川原よしき TESHIGAWARA Yoshiaki(即興ヴォイス)

発声法・ジャズ表現・ヨガをセイ高橋氏に、野口整体を長谷川淨潤氏に学ぶ。2015年ファーストアルバム「僕の声は君の声」、2021年セカンドアルバム「君の明日の向こう側」をリリース、FMやまと・ラジオナビゲーターとして10年以上在籍。臨終・看取りがテーマのドキュメンタリー映画「いきたひ」ナレーション、エンディングテーマ曲DUET歌唱参加。2017年つの犬/角田健(ds)氏の誘いで、インプロビゼーションジャズの世界へ。井上淑彦(sax)竹内直(sax)金剛督(sax)松本健一(sax)角田健(ds)長谷川淨潤(p)外谷東(p)今井てつ(p)中村香奈子(横笛)と共に。また、「みんなで歌おうアカペラ・コンサート」を老人介護施設にて開催し、息を合わせてボ二体となり歌う心地良さと安心感の輪を広げている。2024年末、富樫勝彦(vo)洋水(vo)と共にボーカルトリオ『The Vintage Vibes』を結成し、古き良きジャズの素晴らしさを伝えていく活動に取り組んでいる。<https://yoshiki-teshigawara.com/>



斎藤俊輔 SAITO Shunsuke (Electric Bass, etc)

中学生の時にギター、高校生の時にベースとドラムを始める。

大学在学中フリージャズやインプロヴィゼーションに傾倒し、様々なトライを続ける。

24歳の時にROVOの芳垣安洋氏に衝撃を受けパーカッションを始め、その後パーカッショニストとして様々なジャンルのミュージシャンと共に演。東日本大震災をきっかけに福祉の世界に深く関わるようになり、障がい者と健常者の混成バンドに打楽器奏者兼支援員として参加し、日本全国を巡り、首相官邸内やタイ・バンコクの芸術文化センターでの公演にも参加。

自身のリーダーバンド、OSMO(現在は解散)ではディジュリドゥ・ラップ・エレキギター・パーカッショニという編成で作曲も行った。

2022~23年はプログレバンド・henrytennisでベースを担当。現在も感覚やその場のひらめきを大切にしながら、様々な楽器を駆使し様々なジャンルのミュージシャンと共に演奏を続けている。



長谷川淨潤 HASEGAWA Joejun (Piano)

中学時代から憧れであった山下洋輔氏の目前で20歳の時にピアノを弾き「お前は俺だ、俺はお前だ。」と認められる。

「淨潤は、とても繊細で大胆な音楽を創る名人である」とは横濱老舗ライブハウスマスターの紹介文。

完全即興のフリージャズスタイルでいながら、時にメロディックのフレーズが流れる特異なコード感覚とリズム感、そして心地よいタッチと透明感溢れる音色は唯一無比で、「フリージャズの鬼才」とか「天上のピアニスト」とも呼ぶ

人もいる。(「和服で演奏するピアニスト」としても唯一)
「早く整体や氣道を辞めてピアノ一本に絞れ」とは、或るクラシック喫茶マスターの言葉。
ジャズを全く知らない方にでもファンが多く、毎回変わる即興演奏は躍動と瞑想のひとときだろ。

(「ほんまかいな」by 淨潤)
<https://npo-kido.com/>



竹内直 TAKEUCHI Nao (ts, fl, bcl)

1977年、1986年と2度にわたって渡米。

1977、1986年にニューヨークに滞在。Jazz Center of New Yorkに自己のバンドで出演。

帰國後、エルビン・ジョーンズ(ds)・ジャバニーズ・ジャズマシーンに参加。

フレディ・ハバード(tp)と共に演。

1991年、ブラジルに渡りオデジャネイロでルイゾン・マイヤ(b)と親交を深め、サンバやボサノバを吸収する。

2002年には山下洋輔ユニットの一員としてヨーロッパ・ツアーや敢行。

2002年、来日したビル・クリントン前米大統領の歓迎晩餐会でサキソフォビアのメンバーとして、メイン・ステージを務め、クリントン氏から賞賛される。

リーダーアルバムとして最新作「シンバイオシス」を含む12枚をリリース。

<http://takeuchinao.com/>

<https://youtube.com/@takeuchinao?si=mkoakpk7hzqz49i>



松本健一 Matsumoto Keni-chi (Saxophone)

1964年長崎県生まれ。

インプロヴィゼーションや特殊奏法を中心に縦横無尽に探求するクレイジーサックス奏者。

80年代後半より新宿「PIT INN」など都内ライブハウスで演奏を始め、以後多方面で演奏活動を繰り広げている。

2017年春より山形県鶴岡市に移住。以来、庄内地方一円での演奏活動やジャムセッション、即興演奏ワークショップ、「ツルオカ・ミーティング」

「ジャズコンサート」の制作、鶴岡在住ベース奏者若林美佐とのデュオ演奏、鶴岡のテクノ&アコースティック即興ユニット「Abstract Tackle」での演奏と制作、横浜在住ギタリスト福島久雄とのリモートセッションを中心とした「漂流(さざらい)duo」、国内外の面白いミュージシャンの招聘などに携わる。